

藤岡啓介の翻訳玉手箱 第3篇
公開講座 プロになるぞ！！ 第6回
コメント一覧

タイミング

タイミング、使いたくなるな、それほど日本語に馴染んでいる。でも、古典ものではどうかな？

いらしているのかな？

丁寧すぎるな。これから先が大変だ。語り手だから、本文の調子とも連動しますよ。

正確には

日常の会話では「正確」はそうそう使うものではない。

誰なのか聞いてもいいですか？

「いったい誰なの」の方が自然だけど、考えがあったんだろうな。

アンブローズ

前回は名・姓の取り上げ方でコメントしたけど、名だけで差支えないところは名で。この方が読みやすい。時任謙作、瀬川丑松、日本の作家も作中では名をとって謙作、丑松ですね。それがなぜなのかは別の議論になりますが.....

随分昔の出来事だが、メドウクロフト氏の妹がアメリカ人の商人と結婚したのをぼんやりと思い出した。その後、たしか子供を一人残してかなり前に亡くなったはずだ。それからの事情は今知ったのだが、父親もこの世を去ってしまったそうだ。死ぬ間際に彼はたった一人で残される娘を心配し、モルウィックに住む妻の親戚を頼り娘の今後を託したのだった。

こういうところ、翻訳者はすごく工夫するのだけど、読者は何気なく読み飛ばしている。泣けるな。

「ルフランクさんは良い時期を選んでいるはずがないよ。だって今、僕達の家はぜんぜん明るい雰囲気じゃないんです」

困った！ 解説を読んでもらおう。

「アンブローズ君達と一緒に住んでいるお客さんが誰かいるのですか？」

この質問も日本語の論法ではない。逍遙が新日本語を創作したとしても、こういう論理はとらなかった。『当世書生気質』を読んでごらん。

最高に楽しい女の子

キャバレーの女の子？

出会っているはずですが

ナヌッ！？

無力の

たしかに「無力」だけど、困ったな。

でした

文体がおちついていないな。

時期

タイミング、というカタカナ語がぴたりのところ。日本語には何万語という言葉があるのに、ぴったり合言葉がカタカナ語とは！

シリーズ

つづりと発音、句動詞などがあります。

川本茂雄先生

ぼくが早稲田に籍を置いていた1950年代、川本先生が仏文科で教鞭をとられていました。なぜ教室に潜り込まなかったか、悔やまれます。ほんとうに遅ればせながらですが、残された御著書を拝読しています——合掌

『講談社ニューワールド英和辞典』

当時はこの辞書が出版されたのも見落としていました。『工業英語』の編集で採用した女子社員が持っているのをみて、まさに驚愕した辞書でした。

今際のきわに

ビュシーノさんは「死ぬ間際に」としていますが、「死ぬ」があからさまなので「今際の」という言い方があるのですね。